

■平成 28 年度発表論文一覧

- 竹内 慎治『ジオパークにおける自然材料の保護と利用についての考察  
～プチ・ジオトープの販売の是非をめぐって～』
- 内山 伸一『糸魚川の地形と文化を考査した道の歴史とジオパークの街づくりに関する  
研究』
- 樋口 すみ子『糸魚川の地酒に関する魅力の研究』
- 佐藤 和雄『ジオパークで農山村は甦るか・荒廃する根知地区の推移と展望に関する  
研究』
- 松澤 克矢『ジオパーク式相続 ～地域をつなぐ、「ジオ的」相続のススメ～』
- 横澤 富士子『糸魚川ジオパーク式愛着形成論』
- 高澤 知恵『糸魚川ジオパークにおける地形と文化の残存融合財産に関する保護と活用の  
研究』
- 山口 和雄『糸魚川ジオパークにおける固有の丘陵地を題材とした風土と文化の変遷に  
関する研究』
- 小林 早文『糸魚川ジオパークにおける公共施設の活用手法と可能性に関する研究』
- 平野 悟『勾玉の魅力に関する研究』
- 小野 雅春『フォッサマグナミュージアムの案内方法に関する研究』

## ■平成 28 年度発表論文概要

ジオパークにおける自然材料の保護と利用についての考察 ～プチ・ジオトープの販売の是非をめぐって～

竹内 慎治 (*Shinji-Takeuchi*)

ユネスコの支援で、2004 年に設立された世界ジオパークネットワークにより、世界各国でジオパーク活動が推進され、新潟県糸魚川市 [図 1] も、2009 年 8 月 22 日に日本で初めて世界ジオパークの認定を受けた。そして、2015 年 11 月には、ユネスコ総会においてジオパークの取組が、ユネスコの正式プログラムとなった。ジオパークは、大地や動植物などの自然や人々の歴史、伝統・文化の価値が世界的に高く評価されている地域である。糸魚川市では、ジオパークに指定された貴重な素材を保護し、ジオパーク教育を進めながら、ジオツーリズムという観光形態を推進して、地域振興を図っている。

糸魚川市内の中学校では、ジオパーク教育を推進するための学習用教材の一つとして、『ジオトープ』づくりを進めている。(ジオトープは、生物を中心にして構成されている空間であるのに対して、ジオトープは、地形や地質を中心に考えた空間である。)また、ジオパークカレッジでは、このジオトープの考え方を広く一般市民に理解してもらうために、プチ・ジオトープを考案し、ジオパルのイベント等で、子ども用の学習用教材として活用したり、おみやげ品として販売したりしている。ところが、プチ・ジオトープには、糸魚川の土や砂、石、植物等の自然素材が使用されており、ユネスコ世界ジオパーク運営ガイドラインに抵触しているのではないかという疑問の声があがった。そこで、この研究では、このプチ・ジオトープの販売の是非について考察する。

## 糸魚川の地形と文化を考査した道の歴史とジオパークの街づくりに関する研究

内山 伸一 (*Shinichi-Uchiyama*)

道・路・途とは、1・人や車などが往来するための所・通行する所・2・目的地に至る、みちのり、距離、(広辞苑)と示されている。

人々が生活の中で、公営・民営など必要があるものを運搬する。

徒歩から、馬車道・自動車・早く・安全に目的地に到達する義務を負う。

本研究においてはこの「道」という文化や物質などの交流ツールとポテンシャルを題材に、糸魚川の特異な地形とそこに育まれた歴史の変遷を照らし合わせることで、世界ジオパークにおける今後の街づくりに対する調査を行い、寄与貢献できればとの願いから、本研究において一定の結論を導いた。

## 糸魚川の地酒に関する魅力の研究

### 樋口 すみ子 (*Sumiko-Higuchi*)

酒造りの起源は、縄文時代から現代まで酒造りが行われてきた。

最近海外では、日本酒ブームで都市部のレストラン等、日本酒のメニューが増えつつあるという。

本場の日本に来て観て、酒蔵の話を聞き日本酒の素晴らしさを感じ取り、観光の注目度は高いようである。

特に新潟県は全国に知られた銘酒の産地、酒蔵の数も多く、県内には 99 の蔵があり、其々個性のある酒を醸している。

新潟が酒どころと言われるようになった理由は、質の良い米の産地・そして酒造りに最適な米と呼ばれる品種があり、広く栽培されているようである。

本研究はこの新潟県内における有数な地形と地質を誇り UNESCO から世界ジオパークの認定も受けている糸魚川地域の風土に育まれた地酒について、その特異性や特色についての研究を行った。

この地酒についてはここ糸魚川にも 5 銘柄 (50 音順に) 根知男山・加賀の井・謙信・月不見の池・雪鶴・があり、それぞれ個性とこだわりを持っている。

この街は何故酒が美味しいのか・・・ジオの恵み、北アルプスの大隆起と関係していることに著者は注視している。

古代、姫川に扇状地が出来、それが地下水となり酒造りの源となるお米、水が自然環境にマッチして美味しくする。(もちろん人の技・気候・四拍子揃わなければならないと考えている)

又、糸魚川は縄文の時代より文化が継続されてきた地であり、新潟県で最も古い酒蔵はここ糸魚川にある。

現在この糸魚川にある「5 つの酒蔵はどのような取り組みとこだわりを持ってきたのか？」とした視点に関心を持ち、研究を行った。

## ジオパークで農山村は甦るか・荒廃する根知地区の推移と展望に関する研究

### 佐藤 和雄 (*Kazuo-Sato*)

新潟県糸魚川市にある根知地区は農業が盛んな所で米作・酪農・林業と、活力のある地域だった。

人口も 4 千人を超え、村には小学校が 3 校、中学校 1 校、糸魚川高校定時制もあり豊かな地であった。

この 50 年間程の社会の動きの中で梶山・大久保・西山・余所・杉之当・中上条・上沢などの集落が消滅した。

農地は昭和 50 年 10 月起工、58 年 10 月完工した圃場整備事業で大規模高地へと変貌した。

昭和 55 年 12 月オープンしたシーサイドバレースキー場は何度か経営不振で休業再開を繰り返しながら現在に至っている負の数値は否めない。

一方、昭和 40～50 年代は青年団の活動も盛んで、民俗資料保存活動で『塩の道資料館』建設を実現し、塩の道ハイキング等、多くの人を訪れている。

平成 13 年になると山寺地区にある『延年のおててこ会館』も建設された。

又、平成 16 年度にはその周辺にある白池一帯が『雨飾山麓しろ池の森』として整備された。

こうした歴史の後、糸魚川市が UNESCO による世界ジオパークとして認定(平成 22 年認定・平成 27 年世界遺産正式プログラム決定)を受け、近年ではジオパークのサイトとして『フォッサマグナパーク枕状溶岩見学サイト』などへ多くのことが見学に足を運んでいる事から正の数地を十分に蓄えた地域であると考えられる。

こうした地域の歴史から見た根知地区は現在日本に残る固有の重要な環境維持地区と考えられる。

その為、地方都市特有の正負の数値を紐解き調査・研究することによる保全の提言と、固有の重要環境としての正の数地に対する発展を促すアプローチができればと考え本研究に着手した。

## ジオパーク式相続 ～地域の思いをつなぐ、『ジオ的相続』のススメ～

### 松澤 克矢 (*Katuya-Matuzawa*)

本論文は地方の衰退という地域の大問題に対して、『相続』というキーワードから、地方再生のアプローチを考察するものである。人が亡くなれば、『相続』が発生する。第二次世界大戦以降、それまで主流であった家制度・家督相続は廃止され、法定相続分に基づく均分相続制度に移行した。一部の者への富の集中を回避し、権利は何人に対しても平等であるべきとする近現代社会における福祉国家的な考え方からすると、一見この制度移行は正しいように思われる。日本国憲法において、職業選択の自由、居住移転の自由等が認められ、人々は容易にその所在、ライフスタイルを選択することができるようになった。行きたいところへ行き、住みたいところに住み、やりたい事ができる社会。素晴らしい社会が到来したといえよう。しかしその反面、都市部と地方部の二極化、持てる者と持たざる者との格差がますます拡大している。地方部の現状をみると、人々は豊かさと暮らしやすさを求め、都市部に目を向ける。結果として地方から都市部への人口の流出が止まらない。それに伴い、富・財産もまた、どんどん都市部へと流出してしまい、地方部はますます衰退の一途をたどる。親から子への財産の移転に伴い、先祖代々受け継がれてきた家が消滅しその結果として地域の衰退につながっているという現状が有る。果たしてこれでいいのであろうかと疑問を抱いた。

また『相続』ということばの持つ本当の意味や価値とはいかなるかを考えた結果、『ジオパーク的相続』(以下本分ではジオ的相続と呼ぶ)と命名して財産・富の移転だけに限らず、

また、個人の問題に限らず、地域全体で考える視点・大地全体で考える視点を用いて調査研究を行った。その結果、財産・富の移転以外にある大切な価値に対して着目した上で、それをより適切に引継ぐことができる可能性を考察し、必要性を提唱することを本論文は試みるものである。

・・・これを機に皆様から地域社会における正しい相続のカタチを共に考えていただければ幸いである。・・・

### 糸魚川ジオパーク式愛着形成論

#### 横澤 富士子 (*Fujiko-Yokozawa*)

2017 年現在、著者は新潟県糸魚川市において糸魚川市子どもの教育相談員という職種につき様々なケースに遭遇し対応してきたが、こうした経験値からすべての子どもたちが、ひとみを輝かせて未来の夢に向かって成長してほしいと願っている。糸魚川市一貫教育の取組としても、子どもが元気に心も体も健やかに成長するためには、早寝、早起き、おいしい朝ごはんに代表される規則正しい生活リズムが礎となり、そのうえに健やかな体、豊かな心、確かな学力を備えた子どもを育てることが重要と考えている。また、子どもの生活リズム向上の取組は、家庭、地域、園、学校の連携に加え、成長に応じて一貫して取り組むことが大切であり、特に 9 歳までの生活リズムの定着が重要であることを確認した。同時に著者は、東京都出身であり外部からの比較考査とした視点から糸魚川地域における様々な自然環境資源や、独特の風土がはぐくんできた人文環境を構築している地域として、独自の糸魚川地域資源がポテンシャルとなる新たな希望や、発展性や、可能性も見出し、期待もしている。その為、糸魚川市におけるこれまでの取組や問題を抱える子どもや保護者や教職員から教えて頂いたことを整理したい。本研究では糸魚川で生まれ育った子どもが、夢を持ちながら自己実現を果たして日本一の子どもになるにはどうしたらいいのかを調査研究をライフワークとして継続してゆきたいと考え、本研究では先ず糸魚川地域の自然や人文における環境資源の整理を行い、同時に著者の経験値と近年における生活教育の実態を調べ、比較考査を行う事で生活教育と糸魚川地域環境資源の関連性において論理的かつ客観性を持った一定の尺度について確認を得ることが出来た。

### 糸魚川ジオパークにおける地形と文化の残存融合財産に関する保護と活用の研究

#### 高澤 智恵 (*Chie-Takazawa*)

2016 年 4 月から、新潟県糸魚川市に残存する、旧北陸本線の親不知レンガトンネルの整備が完了し、一般に公開された。親不知レンガトンネルと親不知コミュニティーロードが遊歩道で結ばれ、絶景を楽しみながら散策することができるようになった。建設から 100 年以上もたっている鉄道トンネルであり、著者が生まれたころには既に廃線となっていた為、存

在すら知らない鉄道遺産であった。著者は、整備前に市が開催した見学会に参加して、レンガトンネルの歴史や功績を知ることができ、大変感激した。是非多くの方に足を運んでもらい先人の素晴らしさを知ってもらいたいと切に感じた。もっと知名度を上げて魅力ある観光拠点となって欲しいので、著者なりの企画提案をしていきたい。

整備前は、足元が煤や水溜りで汚れるため、長靴やさらにその上からも煤よけにビニールをかぶせたりして歩いた。地面も凸凹して歩きにくかったが、整備後は足元等が灯され、盛土で均した歩道が出来ていた。

### 糸魚川ジオパークにおける固有の丘陵地を題材にした風土と文化の変遷に関する研究

山口 和男 (*kazuo-Yamaguchi*)

新潟県糸魚川市は日本が世界に誇る大地・生態系・文化を持つ地域であり、地方都市として小さな集落の集合に日本文化の特徴があり、風土としての特異性に価値があり、今後の発展にも着目した。糸魚川地域はもともと越の国として険しい頸城地方の七つの谷のうち五つの谷を有しているが、古代より文化の中心地であり、神の国としてあがめられ、近代においては地質学者ナウマンによるフォッサマグナの発見、登山家ウエストンにゆるアルプスの起点としての認定、文学者相馬御風らによる翡翠の発見から国石としての認定も受けている。又、2009年にその地質や地形の特異性から世界ジオパークに認定され、その後2016年にはUNESCOによる第三の世界遺産として登録された。このような背景から著者が生まれ育った小さな単位の集落から地形・風土・文化を捉え、造園学における macro・meso・microの三視点から比較することで失われゆく日本の顔に対してその重要性を理解してもらいたく研究を行い結果の報告を行った。

### 糸魚川ジオパークにおける公共施設の活用手法と可能性に関する研究 No2

小林早文 (*Hayafumi-Kobayashi*)

新潟県糸魚川市はその特異且つ貴重な地形や地質から UNESCO による世界遺産となる世界ジオパークに認定されている。

この大地の公園となる世界遺産は大変複雑な起伏のある地形であり、古き時代より風光明媚な自然景観や独自の風土が高く評価されてきたが、同時に古代からの東西文化の分岐点として重要な役割や、近代日本の鉄道文化にも大きな影響や役割を担ってきた。

このような関係から著者は Fossa Magna や、アルプスの起点となる大地と日本の鉄道史や文化の関係において重要な糸魚川を鉄道のジオラマ模型として多くの人に楽しんでもらえればと願い、鉄道模型をもとにレクリエーションとして子供から大人まで楽しめる、具体的な公共施設を活用したシステムについて著者自身が市民として携わってきた経緯からも調査計画を行い、大地・鉄道・レクリエーションの一体したコミュニティー形成に役立ちたい。

### 勾玉の魅力に関する研究

平野 悟 (*Satoru-Hirano*)

2016 年に日本の国石にヒスイが選定された。ヒスイと勾玉は深い関係に有り、その歴史は 1000 年以上にもなる。著者自身縄文の時代から翡翠のヒスイの産地として歴史を持つ糸魚川暮らす身として、この勾玉に大変魅力を感じている。その魅力が何故なのかについて調査・研究した。その結果、丸い形状と鋭い形状の相反する特徴を併せ持った形状であること、古代に魂とそれを守る霊力を併せ持つことを象徴するものとして珍重されてきた歴史を持つことが読み取れ、分析が出来た。又、人々が感じる印象については、美しさ、優しさを感じることから好感を持ち、なおかつ強い印象を受けていることが判明した。

### フォッサマグナミュージアムの案内方法に関する研究

小野 雅春 (*Masaharu-Ono*)

本研究では UNESCO 世界ジオパークに認定された新潟県糸魚川市の専門的施設である博物館の案内を学芸員でなくガイドがどのように行うべきか、来場者の反応を見ながら試行錯誤し取組んできた。この経験値から案内の内容と検討・工夫の取組を「見える化」とすると共に、自身の活動と来場者の反応をデータとして集め、解析する手法で評価を行い、一定の成果が確認された事から、さらに今後の発展を願い来場者に喜ばれる案内方法を提言する。